

【都筑令和 3 第 2 区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和 3 年 6 月 11 日 (金) 午前 9 時 55 分 ～ 午前 11 時 20 分
場 所	都筑区役所 6 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】望月高德 議員</p> <p>【議 員：3 名】斎藤真二 議員、草間剛 議員、藤居芳明 議員</p> <p>【都筑区：29 名】佐藤友也 区長、下村幹夫 副区長、 深澤義一 災害対策担当部長（都筑消防署長）、 林千賀 福祉保健センター長、 繁野芳彰 福祉保健センター担当部長、 谷津毅 都筑土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和 3 年度 都筑区に係る予算のすがたについて</p> <p>(2) 令和 3 年度 都筑区自主企画事業の主な事業と取組について</p> <p>(3) その他</p>
発言の 要 旨	<p>【新型コロナウイルスワクチン接種について】</p> <p>草間議員：区役所に配置されているワクチン接種相談員の対応状況は落ち着いているように思うが、どのような状況か伺いたい。</p> <p>中村総務課長：ここ数日は落ち着いている状況である。インターネットをご利用いただけない方もいると思うので、どのように予約したら良いかなどについて、区役所で相談を受けられることを PR していき、相談員の活用をしっかりと考えていきたい。</p> <p>望月議員：ワクチン接種のキャンセル状況について伺いたい。</p> <p>中村総務課長：都筑公会堂におけるキャンセル状況は、日によって異なるが概ね 3～4 名程度である。</p> <p>望月議員：キャンセル枠についてはどのように対応しているのか。</p> <p>中村総務課長：平日については、区役所職員の中でも保健師などの医療従事者が接種し、土日については、従事しているスタッフが接種し、ロスが出ないように進めている。</p> <p>望月議員：今後もキャンセル枠のワクチン接種について、誰がどのような順番で打つかなどあらかじめ考えてほしい。また、ワクチン接</p>

種は任意であるため、強制にならないよう重々踏まえてほしい。

草間議員：区役所内での医療従事者とはどのような人なのか伺いたい。

林福祉保健センター長：保健師や衛生監視員などの専門職のほか、場合によっては、区でクラスター施設等にPCR検査の集団検査をすることがあるため、そこに従事を想定する職員は、医療従事者としている。

【予算執行について】

藤居議員：新型コロナウイルス感染症の影響により、他の事業などで予算を有効に活用すべき状況になった場合、具体的にはどのような想定をしているか伺いたい。

佐藤区長：予定している自主企画事業は、今のところ順調に進めているため、具体的にはまだ決まっていない。ただし、感染状況に応じて、さまざまな事業が縮小や中止になる可能性はある。その際には、区の予算として執行できるように考えていきたい。

【まちづくり総合調整事業】

草間議員：先日の常任委員会で都筑区民文化センター（仮称）の整備状況の遅延が発表されたが、時間ができた分、周辺のまちづくりをよりやらなければならない。課題は、渋滞対策や今後増える外国人とまちの共生だと思うが、これからどのように進めていくのか伺いたい。

川島区政推進課長：今年度は、動線の検討やにぎわいの生み出し方などの検討を委託で行う。今後、道路局や文化観光局、都市整備局、交通局と連携し、都筑区が中心となって検討を進めていきたい。

草間議員：ぜひ目標値を決めて、多文化共生の視点からも取り組んでほしい。

望月議員：都筑区民文化センター（仮称）の進捗の中について、区切りとなるようなことについてはわかった時点で区民の方に伝えてほしい。また、動線とにぎわいづくりについて、意思疎通を設計会社と図りながら、地域の声を聴いて対応してほしい。

川島区政推進課長：区民の皆様への周知は、区民文化センターニュースを

発行して、スケジュールの変更など、現在の検討状況についてお知らせしたいと思っている。区連会でも周知するなど、しっかりやっていきたい。動線とにぎわいづくりについては、昨年度交通量調査を実施し、乱横断がどれくらいあるか調査した。今後、平日 2,000 人程度の就業人口が増えるとも聞いている。当該地域に住んでいる方や警察ともしっかり協議をし、検討していきたい。

【未来につなぐオリンピック・パラリンピック事業】

草間議員：ネットなどを通じて、子どもたちと英国水泳代表チームを繋ぐ取組の状況を伺いたい。

篠崎地域振興課長：対面での交流はできないことから、区内のオリパラ教育推進校の児童たちに協力していただき、選手への応援メッセージ等を作成して届けることを考えている。ネットでの交流はなかなか進んでいない。

草間議員：ボツワナのチームとは、ネットで繋がりたいと思っている。英国水泳代表チームとの調整は難しいかもしれないが、可能な限り、子どもたちと選手が非接触型で交流できるような機会を模索してほしい。

望月議員：英国水泳代表チームの事前キャンプについては、予定通り行われるのか。

篠崎地域振興課長：7月上旬から8月上旬まで予約が入っており、変更はないと聞いているが、実際の滞在予定については、まだ情報が入っていない。

【災害にそなえる自助・共助の推進事業／危機管理対策推進事業】

草間議員：横浜市災害時における自助及び共助の推進に関する条例を改正しようとしているが、国の指針により要援護者の避難計画を作らなければならないと聞いている。区はどのように取り組むか決まっているのか。

室山福祉保健課長：まだ詳細については、局から指示が出ていないが、かなりの人数になるため、優先順位をつけて取り組んでいくことになると思う。

草間議員：都筑区で要援護者は何人いるのか。

室山福祉保健課長：要件が重なっている方がいるが、実人数では6,439人である。

草間議員：都筑区におけるペット同行避難については、なかなか進んでいないと思う。課題はどのようなことだと思うか。

河野生活衛生課長：避難場所でもペットと一緒に暮らせると考えている方が多くいる。現実的には、ペットの一時飼育場所は、屋外になるため、必ずしもペットに適切な状況ではない。飼い主の方には、特に風水害においては、事前に台風等の予測ができるため、より安全・安心な一時預け先について検討をしていただくよう啓発していきたい。また、地域防災拠点については、ペットを連れて大勢避難場所に避難してくることになる。そういった状況をイメージしてもらうことに、今後力を入れていきたいと考えている。

草間議員：区ごとの特性を踏まえ、独自で進める必要があると思う。鶴見区や金沢区などとは異なり、都筑区は津波の想定はしにくい。区独自で取り組まないと、都筑区における同行避難はなかなか進まないと思うが、それについて区長はどう考えるか。

佐藤区長：区独自での取組は、状況によっては不可能ではないと思う。ただし、全市での避難の考え方と照らし合いながら、区の状況に応じた形で取り組みたい。断水や停電などについては、災害が起きたときに在宅でも過ごせるように備えていただくことを、区独自でもしっかりと広報していきたい。

草間議員：ケージを備えることや、プールの地下にペットを置くことなどをやめて、都筑区は災害時にペットをどうするのかと区独自で考えないと進まない。ぜひ力を入れて取り組んでほしい。

佐藤区長：地域防災拠点への避難ではなく、すべての方が在宅避難という話にはならないと思う。地域の方にはしっかりとご理解いただきながら、ペットを飼っている方も飼っていない方も、共にしっかりと安全に安心して避難できるようにやっていきたい。

藤居議員：防災・減災講演会や自治会町内会向けの研修などの開催状況を伺いたい。

中村総務課長：今年度は、自治会向けの研修を1回実施した。各自治会から要望があれば、講座の開催や研修会などを実施していきたい。

藤居議員：防災訓練の実施内容など、新しい取組もぜひ案内いただきたい。
また、子どもを通じた啓発についてどのように考えているのか伺いたい。

中村総務課長：都筑区と東京ガス横浜中央エネルギー株式会社で、横浜市都筑区における地域貢献活動の協力に関する基本協定を締結した。在宅避難をするために必要な展示コーナーなどを使って、区民の防災意識を高めていただこうと考えている。すでに自治会・町内会や学校などからも関心を寄せられているが、この協定の締結を機に展開していきたい。

藤居議員：子どものころから経験することは大事であるため、今後、体験ツアーなどの実施を要望したい。

望月議員：コロナ禍により昨年度の訓練はほぼ中止になったが、今後地域防災拠点や風水害の避難場所について、どのように取り組むか伺いたい。

中村総務課長：コロナ禍で地域の方々が参加する訓練はなかなか難しい状況であるが、避難場所の開設などについて地域の方々に情報提供し、いざというときに避難するということをしっかりと周知していきたい。

【放置自動車について】

藤居議員：放置自動車の実態や相談状況について伺いたい。

田畑都筑土木副所長：毎年ではないが、相談はときどきある状況である。
資源循環局、警察と連携しながら対応していきたい。

【街のにぎわいづくり事業】

草間議員：区民まつりについて、今年は区役所で開催するとのことだが、
今後はどのような方向性で考えているのか。

篠崎地域振興課長：今年度については、協賛金等の獲得もどうなるかわからないことと、来場者数をコントロールするため、区役所の駐車場での実施を考えている。これからのあり方については、区民まつりのふるさとづくり委員会の下部組織として区民まつりあり方検討分科会を立ち上げ、検討を始めようとしたところ、コロナの収束の状況がわからないという委員からのご意見もあり、議論が止まっている。今年度の区民まつり後、区民ま

つりあり方検討分科会を再開させて、皆様のご意見を聴きながら検討を進めていきたい。

草間議員：地域の絆として、区民まつりのような象徴的なイベントは極めて重要だと思う。コロナ禍をターニングポイントとして、縮小傾向にすることは、安易でもったいないと思う。区民まつりあり方検討分科会では、これからどのように議論していくのか。

篠崎地域振興課長：具体的には決まっていないが、関係の皆様のご意見を伺いながら、検討を進めていきたい。

草間議員：他都市はどのようにマネジメントをして祭りを開催しているのか、ぜひ全国を視察して事例を多く収集していただきたい。区民まつりのあり方は、自治の根源に関わることだと思っている。

望月議員：区民まつりの今後の規模については、それぞれのイメージがあると思うが、中身については場合によっては見直す必要がある。都筑らしさや地域性を出すような形もあると思う。ふるさとづくり委員会の方々が中心となって決めていけばよいと思うが、何か意見を聞いているか。

篠崎地域振興課長：今の区民まつりは、区の予算だけでなく、協賛金も区内の企業の皆様から協力いただき実施している。コロナ後の企業の経済状況は、見通しが立たないことも踏まえて検討していく必要があるとのご意見を委員の皆様からいただいている。

望月議員：区民まつりについて、資金は規模に繋がるため重要だが、質や特徴を考えてほしいとの意見もあるようだ。

望月議員：コロナ禍で経済的に困っている事業者への対応として、事業を考えていくことはできるか。

篠崎地域振興課長：商店街振興については、飲食店は非常にダメージを受けている。具体的には決まっていないが、広報やPRを都筑区商店街連合会の皆様と協力しながら、区民の皆様にもPRを図っていきたい。

望月議員：飲食業の方々は、感染を広げないために協力しているにもかかわらず、経済的な負担を飲食業の方だけがするのはおかしいと思うため、予算は限られているが、取り組んでほしい。

【つづき健康づくりサポート事業（都筑区健康アクション!）】

藤居議員：1歳児の歯みがき教室の実施状況や周知をどのようにしているか伺いたい。

室山福祉保健課長：第1回目は6月21日でまだ募集中である。周知については、広報の区版や乳幼児健診などでチラシを配り対応している。

【ハマロード・サポーター、愛護会等活動推進事業】

斎藤議員：道路の植栽については、ハマロード・サポーターが緑化や美化の観点から管理をしていると思うが、場所によってはドライバーの視覚を遮られるところもある。基準を変えるなど、安全性を考慮するような対応が必要だと感じるところがあるが、どのように思うか。

田畑都筑土木副所長：植樹帯は、車道と歩行者の分離などの機能もある。そのため、一律で大きく下げるなどの対応はせず、通報があれば現場を確認して、状況に応じた形で対応している。通学路についてや地域のまちづくり団体の方から課題が寄せられた場合には、一緒に地域を歩き、課題を探って対応している。今後も地域の方と話し合いの機会をいただいた際には、地域全般的な対応もしていきたい。

斎藤議員：危険を感じていても、通学路などにあたらずあまり子どもに関係のないようなところは、地域から声が上がってこない場合もある。一度、基準の検討などをしてほしい。

備 考